# 荒武者キートン（1923）

OUR HOSPITALITY

| | |
|---|---|
| **メディア** | 映画 |
| **ジャンル** | コメディ |
| **製作国** | アメリカ |
| **色彩** | B&W |
| **時間** | 67分 |
| **初公開日** | 1925/12 |
| **公開情報** | 劇場公開 |
| **リバイバル** | 1979/12［フランス映画社］ |

**【解説】**

１８１０年、隣同士のキャンフィールドとマッケイ家の相克は、遂に当主同士の相撃ちで倒れるという悲劇を生んだ。争いのむなしさを儚んだマッケイ夫人は幼い息子ウィリーを連れＮＹの伯母を頼った。が、キャンフィールドの弟は子々孫々までの復讐を誓うのだった。それから１０数年が経ち、既に母を亡くした成長したウィリーの許に父の遺産相続の報せ。彼は田舎の豪華な邸宅を思い浮かべ、即座に故郷への旅を決意。伯母から、くれぐれもキャンフィールドに気をつけろ、と言い聞かされて、長距離特急の旅客となるが、これが犬の走るのより遅いしろもので、レールは上下にくねって、脱線して土の上を走った方が快適だったーーという具合。この困難な鉄路の旅で席を隣り合わせて、親しくなった娘に夕食に招かれたウィリーだが、彼女こそ宿敵キャンフィールドの愛娘だったから、さあ大変。一家の男たちはウィリーが一歩邸外へ出たら早速撃ち殺してくれようと示し合わせ、彼は屋敷を去るに去られずしばらく滞在するうち、娘とますます親しくなり、いよいよ身の危険を感じ、女装して逃げ出すが……。この後の崖や滝を使ってのクライマックスのアクションはまさしく命がけ、手に汗を握らされる。しかし、いざ父親の残した土地に行ってみるとみすぼらしい掘っ立て小屋が建っているきりで、夢想した豪邸が文字通り吹っ飛ぶ前段のギャグは、画期的なおかしさで、タイミングが絶妙にいい。キートン気合いの初長編は全く見事な出来栄えだった。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | バスター・キートン | Buster Keaton |
| **協同監督** | ジョン・Ｇ・ブリストーン | John G. Blystone |
| **製作** | バスター・キートン | Buster Keaton |
| **脚本** | クライド・ブラックマン | Clyde Bruckman |
| | ジャン・ハベッツ | |
| | ジョゼフ・ミッチェル | |
| **撮影** | ユージン・レスリー | |
| | ゴードン・ジェニングス | Gordon Jennings |
| **出演** | バスター・キートン | Buster Keaton |
| | ジョー・ロバーツ | Joe Roberts |
| | ナタリー・タルマッジ | Natalie Talmadge |
| | ジョセフ・キートン | |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.